

令和5年度 第2回浜松市幼児教育推進協議会 会議録

1 開催日時・開催場所		令和5年9月12日(火)午前9時30分から午前11時50分 浜松市立赤佐幼稚園			
2 委員 ・ 有識者	氏名(敬称略)	所属等	氏名(敬称略)	所属等	
	1 島田 桂吾	学識経験者 静岡大学大学院教育学研究科准教授	8 鈴木 朋子	市立保育所 寺島保育園園長	
	2 山田 佳敬	私立認定こども園 まつばこども園園長	9 河合 享子	市立小学校 中ノ町小学校校長	
	3 菅原 由美	私立幼稚園 平成幼稚園園長	10 佐々木 大樹	幼稚園保護者代表	
	4 竹内 映晴	私立保育所 まつのき保育園園長	11 根本 麻貴	保育園保護者代表	
	5 島田 さち子	地域型保育事業 あいあい保育ルーム園長	12 吉積 慶太	こども家庭部長(委員長)	
	6 神尾 恵美子	認証保育所 エンゼル保育園園長	13 奥家 章夫	学校教育部長(副委員長)	
	7 早河 圭介	市立幼稚園 赤佐幼稚園園長	14 内山 圭子	学校教育部 指導課長	
3 主な意見・質問等					
(1) 保育参観を通して					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が豊かで自由に遊ぶことができる環境の中で達成感を感じている姿が見られた。自園では、危険を避けるために、子供の行動を止めてしまいがちである。 ・ 看板作りで、字を読めない子の対応について、教師に聞いたり友達に教えてもらったりする等、その子の主体性を大切に、興味や関心を育てていきたいと考えている。 ・ 子供の声はよく聞こえるが、大人の声は聞こえない。教師は一人一人に、肯定的で前向きなよい声掛けをしていた。 ・ 保育室は、表示が効果的で、使いやすい工夫がなされていた。すべての場所が決まっていると物を大切にすることになり、人を大切にすることにつながる。 ・ 子供が今やりたいこと、イメージしたことに取り組むことができる環境が整っている。異年齢の関わりが多いことは、年上の子の姿を見て、先を見通しながら期待をもって生活できることにつながっていく。 ・ 教師の役割分担ができていて、互いに連携を取りながら子供たちが安心して楽しむことができる環境作りをしている。 ・ 運動神経が育つ体験ができる環境がよい。いろいろな園児や保護者がいる中での怪我の対応について、子供目線での点検や保護者とのコミュニケーションの確保、子供にとっての遊びの価値の伝達等が効果的である。 ・ 幼児教育を言葉で表すのは難しい。目に見えない非認知能力を育てている園で積んだ体験を、小学校でどうつなげていくかが課題である。幼児期はやりたいことをとことん追求する感情を育みたい。 ・ 自分のパーソナルエリアに他の人が入っても平気な子供の姿から、園全体の優しい雰囲気を感じ、その子らしきを出せていることが分かる。 ・ 教師が子供たちをリスペクトしている。子供は安心感があるからチャレンジし、教師は伴奏者として関わっている。「上手くいった、いかない」のリアルな体験の積み重ねで子供は育っていくので、環境を整えることが大人の役割だと感じる。 					
(2) (仮称)浜松市版幼小接続期の教育・保育実践の参考資料の作成について					
ア 変更後の資料様式について					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びは見えにくいので、整理して表記することで理解しやすくなった。子供にとって遊びは価値あるものであることも明記したい。 ・ 3つの資質・能力の表記は、幼小の接続を意識できるのでよい。遊び名をクリックすると内容が出てくるのは分かりやすく、気付きがあり認識が高まる。 ・ 小学校の教員が必要感を感じて使うことができるものにしたい。 ・ 各園のパソコン環境が異なり、台数が少ない園は活用できるか心配である。各園で活用する方法を工夫していきたい。 					
イ どんな場面で有効に使うことができるか					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びはいろいろあり保育施設によってやり方は異なるため、各園がどの場面で有効に使うことができるか考える必要がある。ワード形式であれば、各園で貼り付けやすく加工しやすい。 ・ 3つの資質・能力や活動のめあて、手立てが明記されていることで、幼児期の経験が理解しやすく、その後の展開を考える上で参考になる。幼小の引き継ぎの際に活用し、年間指導計画作成に活かしていけるとよい。 					
ウ よりよくするための修正点や課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの資質・能力について、接続となると、幼小の言葉を合わせる必要がある。 ・ 小学校サイドのオーダー(子供たちの身に付いている力を知りたい等)に応じるためには、学校関係の人員の参画が必要で、欲しい情報を伝えた方がよい。 					
【まとめ】島田先生より					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料のターゲットである小学校の先生が、どのように使うかを考慮して作成していきたい。小学校が0からのスタートでないことを知ってもらい、「資料を1回見る」「幼児期の教育を理解しようとする」のようになっていくとよい。 ・ 幼稚園、保育園等と小学校では、評価の仕方や評価基準、目標のもち方が異なる。違いを認識しつつ、見直すことができるとうい。 ・ 幼稚園、保育園等の職員は、遊びが小学校の学びにつながっていることを十分理解していないことが多い。例えば、砂や水での遊びが小3の理科の学びにつながる等、遊びの価値をしっかり捉える力を養いたい。互いの教育の価値の理解は、資料だけでは難しい。小学校の教員は、まず遊びの場を見て感じる事が大切である。 					
4 今後 につ いて	(1) 開催日時及び場所について 令和6年2月7日(水)午後 第3回浜松市幼児教育推進協議会 浜松市役所				
	(2) 内容 ・(仮称)浜松市版幼小接続期の教育・保育実践の参考資料についての報告及び協議 ・次年度に向けて				